

令和元年度第3回（第21回）
ICT利活用教育の推進に関する
事業改善検討委員会

令和2年(2020年)2月6日（木）
佐賀県教育委員会

議事次第

I 開 会

II 教育委員会挨拶

III 報 告

令和元年度の取組について（11月～）

IV 協 議

1 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査について

2 学習用パソコンを利活用した学校の取組について

3 プレゼンテーションに関する評価基準について

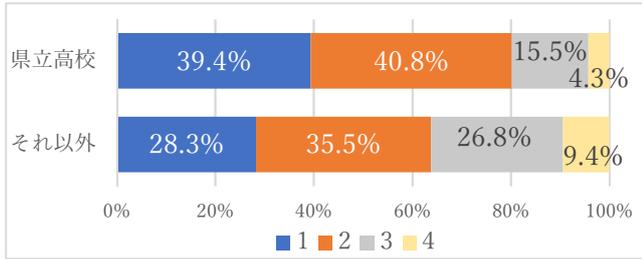
V 事務連絡

VI 閉 会

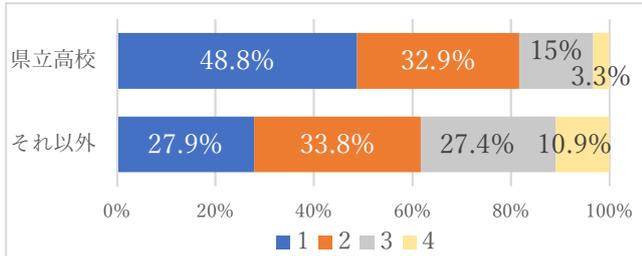
令和元年度 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査

問 あなたは、次のことがどのくらいできますか。

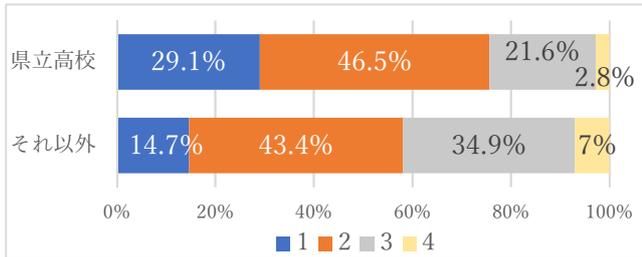
① 1分間で40文字程度の速さでタイピングすること。



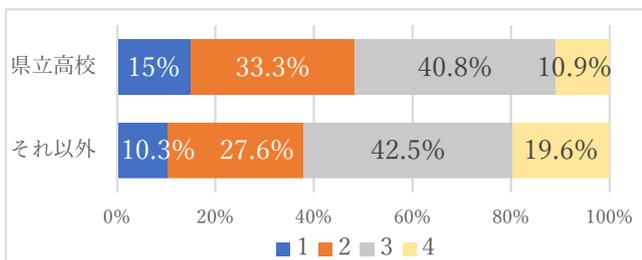
② 関連するファイルを一つのフォルダにまとめたり、フォルダの階層化を行うなどファイルを整理したりすること。



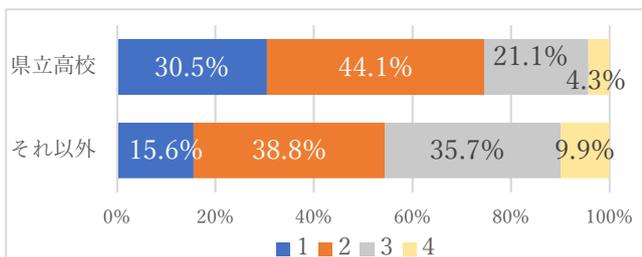
④ 主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、図や表などを使い、説得力のある文章として作成すること。



⑥ 主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、集めたデータを簡単な関数や数式を用いて分析すること。



⑧ 主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、スライドの順序や論理性に注意し、自分の考えを伝えるようにすること。

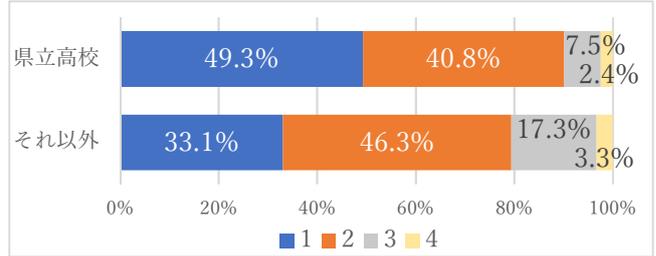


調査時期：9月～10月

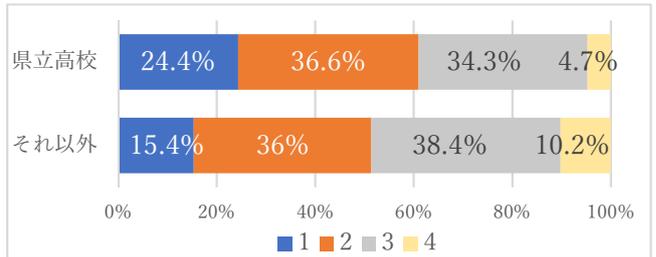
対象：県内の四年制大学に在籍する1年生
県立高校出身 n=213 それ以外 n=456

できる…1、ややできる…2、あまりできない…3、できない…4

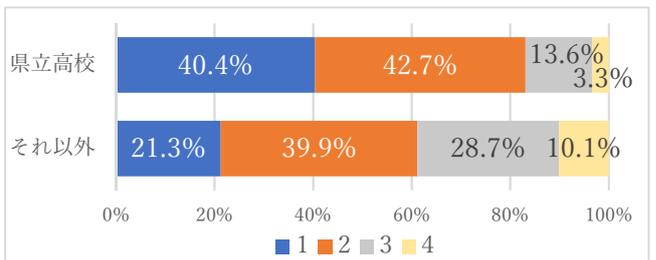
③ 主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、フォントや段落などを工夫し見やすい文章として作成すること。



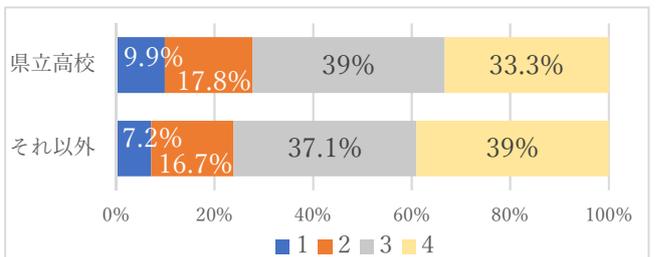
⑤ 主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、グラフや表を用いて、比較ができるように作成すること。



⑦ 主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、図やグラフなどをスライドに挿入して分かりやすくすること。

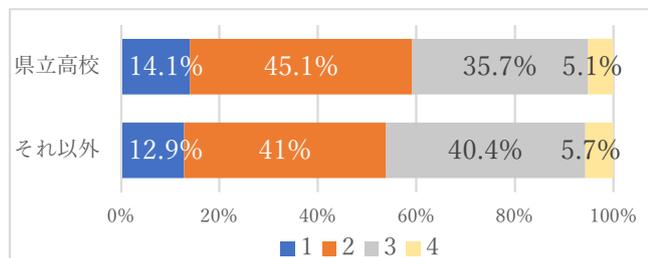


⑨ 簡単なプログラミングをすること。



問 あなたは、次のことをどのくらいしますか。

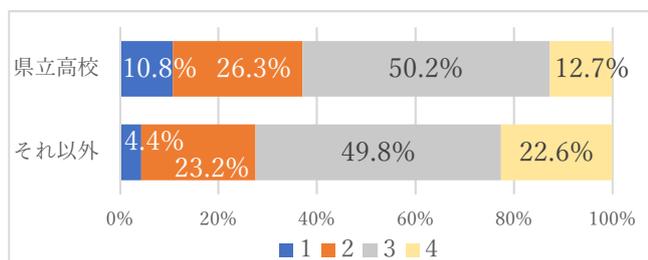
1. 発表の際、自分とは異なる視点での質問があることを想定すること。



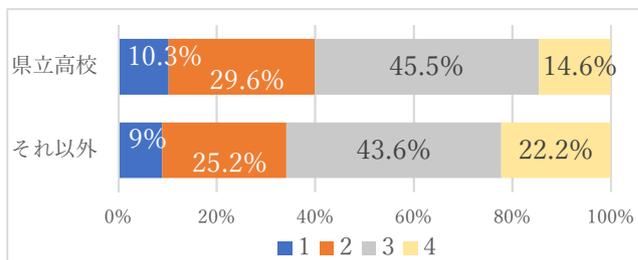
調査時期：9月～10月
 対象：県内の四年制大学に在籍する1年生
 県立高校出身 n=213 それ以外 n=456

よくする…1、時々する…2、あまりしない…3、全くしない…4

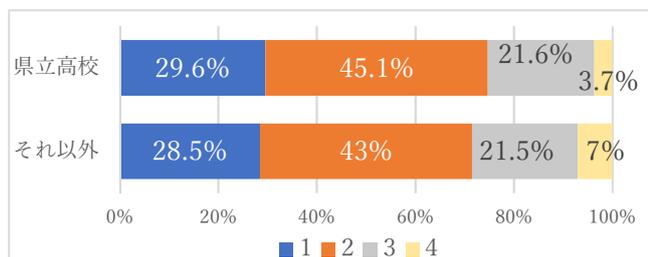
2. 簡単なフローチャートなどの手順図を描いて作業を進めること。



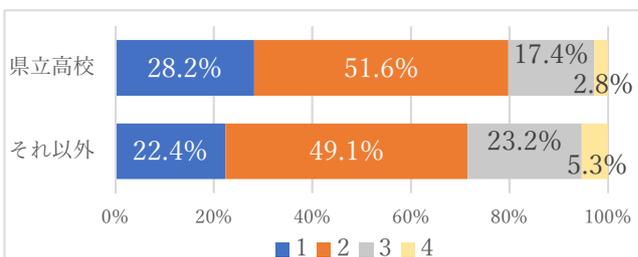
3. ソフトやアプリを活用して、互いの考えを交換し共有すること。



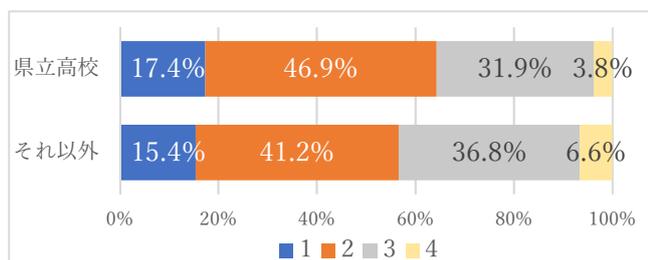
4. 必要な情報を得る際、インターネット（検索）や図書、新聞など調べる手段を使い分けること。



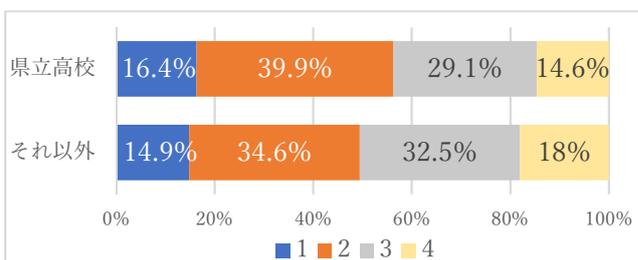
5. 得られた情報が正しいものかどうかを根拠をもとに判断すること。



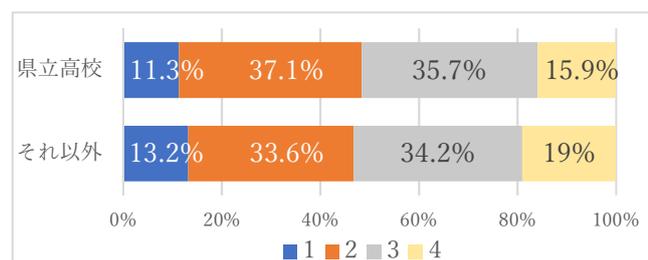
6. 表やグラフなどの複数の資料から必要なものを選び、変化や傾向を読み取ること。



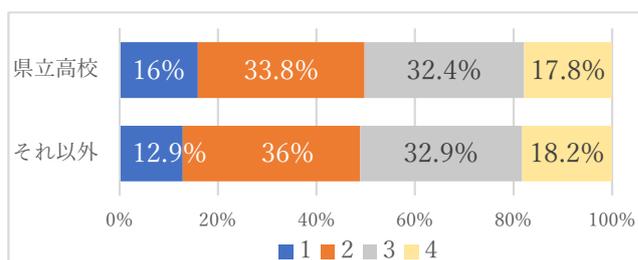
7. 動画サイトなどで講義や授業の動画をみること。



8. インターネット上にある練習問題や試験対策問題を解くこと。



9. 学習ソフトやアプリを使って勉強すること。



令和元年度 大学1年生を対象とした情報活用に関する意識調査

佐賀県教育庁 教育情報化支援室

佐賀県のICT活用教育を推進するにあたり、高校時代のパソコン使用が大学生活にどのような影響を与えているかを把握するため、高校時代のパソコン使用の状況と、大学1年生現在の情報活用の状況をおうかがいするアンケートを用意しました。つきましては、皆様の声をお聞きかせいただき、ICT活用の充実について検討したいので、ご協力をお願いいたします。

1. あなたの出身高校を教えてください。.....

- ①佐賀県内の公立高等学校
- ②佐賀県内の私立高等学校
- ③佐賀県外の公立高等学校
- ④佐賀県外の私立高等学校

2. 高校時代に自分専用のパソコンを使っていたかどうかについて教えてください。.....

- ①自分専用のパソコンを持っており日常的に使っていた
- ②自分専用のパソコンを持っていたがあまり使っていなかった
- ③自分専用のパソコンは持っていなかった

3. あなたは、次のことがどのくらいできますか。 「できる…1」、「ややできる…2」、「あまりできない…3」、「できない…4」

1	1分間で40文字程度の速さでタイピングすること。		
2	関連するファイルを一つのフォルダにまとめたり、フォルダの階層化を行うなどファイルを整理したりすること。		
3	主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、フォントや段落などを工夫し見やすい文章として作成すること。		
4	主に文章ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、図や表などを使い、説得力のある文章として作成すること。		
5	主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、グラフや表を用いて、比較ができるように作成すること。		
6	主に表計算ソフトを使用してレポート等の課題を作成する際、集めたデータを簡単な関数や数式を用いて分析すること。		
7	主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、図やグラフなどをスライドに挿入して分かりやすくすること。		
8	主にプレゼンテーションソフトを使用して発表する際、スライドの順序や論理性に注意し、自分の考えを伝えるようにすること。		
9	簡単なプログラミングをすること。		

4. あなたは、次のことをどのくらいしますか。 「よくする…1」、「時々する…2」、「あまりしない…3」、「全くしない…4」

1	発表の際、自分とは異なる視点での質問があることを想定すること。		
2	簡単なフローチャートなどの手順図を描いて作業を進めること。		
3	ソフトやアプリを活用して、互いの考えを交換し共有すること。		
4	必要な情報を得る際、インターネット(検索)や図書、新聞など調べる手段を使い分けること。		
5	得られた情報が正しいものかどうかを根拠をもとに判断すること。		
6	表やグラフなどの複数の資料から必要なものを選び、変化や傾向を読み取ること。		
7	動画サイトなどで講義や授業の動画をみること。		
8	インターネット上にある練習問題や試験対策問題を解くこと。		
9	学習ソフトやアプリを使って勉強すること。		

<参考>

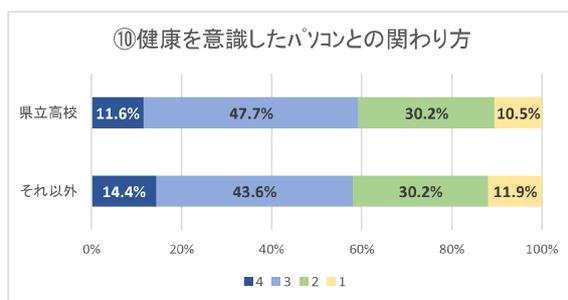
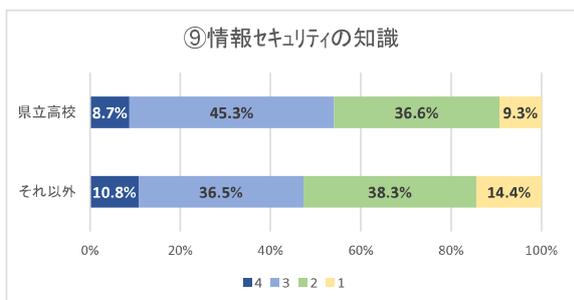
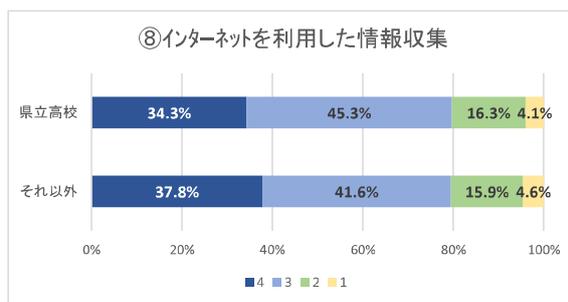
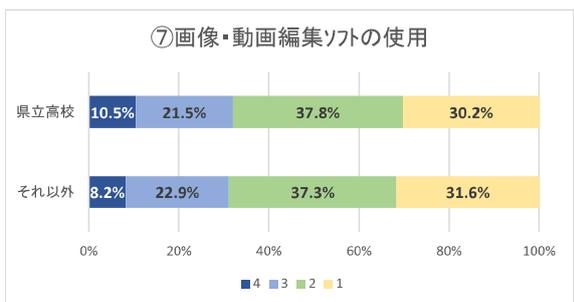
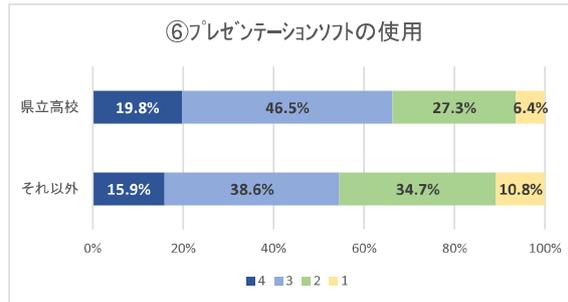
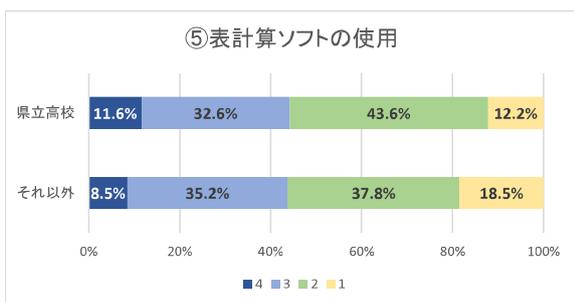
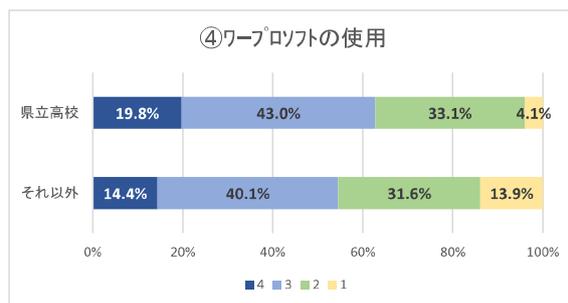
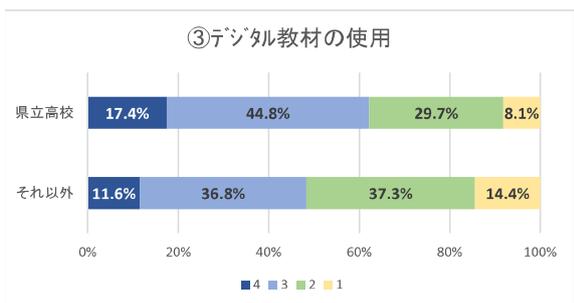
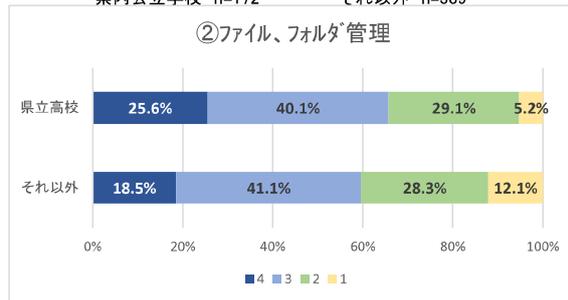
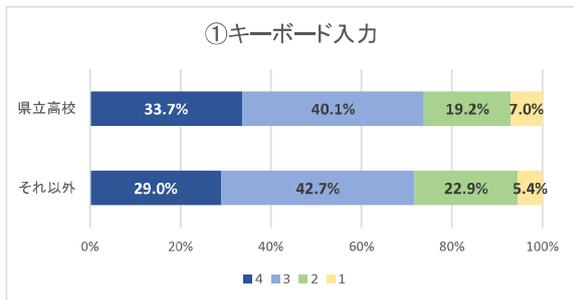
平成30年度 佐賀大学1年生を対象としたパソコン利用についての意識調査

調査時期：教育学部7月、その他の学部10月

対象：全学部

県内公立学校 n=172

それ以外 n=389



(できる(わかる)…4、少しできる(わかる)…3、少し難しい…2、難しい…1)

<参考>

平成30年度 佐賀大学1年生を対象としたパソコン利用についての意識調査

佐賀県教育庁 教育情報化支援室

佐賀県のICT利活用教育を推進するにあたり、高校時代のパソコン利用が大学生活においてどのような影響を与えているかを把握するため、アンケートを用意しました。

つきましては、皆様の声をお聞きかせいただき、ICT利活用の充実について検討したいので、ご協力をお願いいたします。

該当する項目にチェック（✓）または記述をお願いします。

1. 出身高校や、高校時代に自分専用のパソコンを使っていたかどうかについて教えてください。

下の□にチェックを入れ、該当する丸数字を（ ）内に記入してください。 →（ ）

- | | | |
|--------------------------------------|-------|---|
| <input type="checkbox"/> 佐賀県内の公立高等学校 | ----- | ① |
| <input type="checkbox"/> 佐賀県内の私立高等学校 | } | <input type="checkbox"/> 自分専用のパソコンを持っており日常的に使っていた ----- ② |
| <input type="checkbox"/> 佐賀県外の公立高等学校 | | <input type="checkbox"/> 自分専用のパソコンを持っていたがあまり使っていなかった -- ③ |
| <input type="checkbox"/> 佐賀県外の私立高等学校 | | <input type="checkbox"/> 自分専用のパソコンは持っていなかった ----- ④ |

2. 大学1年生の今現在におけるパソコンの活用スキルについて、4段階で自己評価してください。

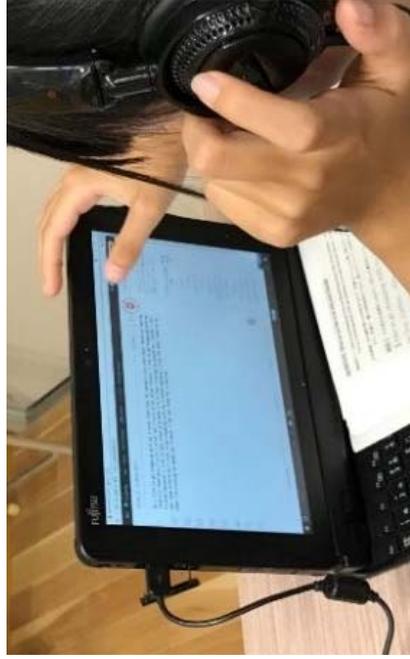
（ ）内に、あてはまる数字を記入してください。

できる（わかる）…4、少しできる（わかる）…3、少し難しい…2、難しい…1

- | | |
|----------------------|-----|
| ① キーボード入力 | （ ） |
| ② ファイル、フォルダ管理 | （ ） |
| ③ デジタル教材の使用 | （ ） |
| ④ ワードプロソフトの使用 | （ ） |
| ⑤ 表計算ソフトの使用 | （ ） |
| ⑥ プレゼンテーションソフトの使用 | （ ） |
| ⑦ 画像・動画編集ソフトの使用 | （ ） |
| ⑧ インターネットを利用した情報収集 | （ ） |
| ⑨ 情報セキュリティの知識 | （ ） |
| ⑩ 健康を意識したパソコンとの関わり方※ | （ ） |

※ …長時間の使用が目、首、腕などに与える影響を考えながら利用している

令和元年度 学習用パソコンを活用した学校の取組について



H30年度の取組より

佐賀県教育委員会 学校教育課 教育情報化支援室

R元年度 学習用パソコンを利活用した学校の取組について ～ 県立高校における取組目標 概要 ～

▶ 視点1 - 情報活用能力の育成 -

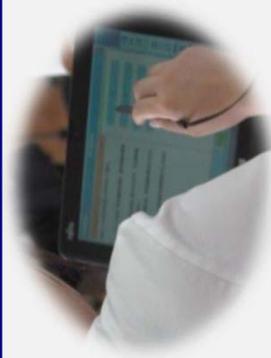
学校目標	設定理由
タイピングスキルの向上 27校 ワードプロ検定 3 級以上 (10分間300文字以上) タイピングスキルを持つ生徒の割合 など	・学習に必要な基礎的資質・能力 ・レポート作成等の効率化
基本的なパソコン操作の習得 4校 パソコン利用技術検定 3 級に合格している生徒の割合 など	・基本的なPC使用方法の理解 ・卒業後も役に立つ技術習得
プレゼンテーション能力の向上 17校 課題について論理的に説明しながら発表する力を有する生徒の割合 など	・学習の基盤となる情報活用能力の育成 ・生徒の発信力の育成
各種資格の取得 11校 全商ビジネス文書検定 (速度部門) の 3 級以上に合格している生徒の割合 など	・将来、実務への活用を図る ・時代に即応できる技術の向上
eポートフォリオの活用 2校 eポートフォリオに蓄積するための振り回り件数	・生徒の主体的な学びの定着 ・高大接続改革への対応

▶ 視点2 - ICTを活用した授業・授業外の取組 -

学校目標	設定理由
資格・技能の習得 3校 実用英語技能検定準 2 級相当の英語力を持つ生徒の育成 など	・卒業後も役立つ資格の習得 ・進路実現の一環
オンライン・デジタル教材の活用 2校 基礎力診断行入の成績(GTZ)でD1以上の割合 など	・基礎学力の向上 ・自己の学習状況に応じた学び
教材等における活用 3校 学習用パソコンを活用し、自分の考えをまとめ表現し報告する回数 など	・教材における思考力・判断力・表現力等の育成 ・意見発表等、お互いを高め合う学び
総合的な学習の時間等での活用 4校 進路について調べたことを学習用PCを利用してまとめ、発表することができる生徒の割合 など	・進学、就職等、自己実現に向けて ・就業時のビジネススキルの習得
教師の自作教材 2校 職員のICTに関する基本的なスキルアップICTを利用した自主教材の作成数 など	・教師のICTを活用した指導力向上 ・デジタルコンテンツの確保

● 今年度の傾向

- 前年度の取組目標を継続して展開している学校が大方を占めているが、「タイピングスキルの向上」から、「eポートフォリオ等での活用」にするなど、前年度の実態を基に、視点1、視点2のいずれかの取組目標を別の内容に変更した学校が **8校**あった。
- 取組目標を継続して展開している学校のうち、視点1、視点2のいずれかの取組目標における数値又は目標値を、前年度の実態を基に、変更した学校が、**32校**あった。



※学校数はすべて全日制・定時制別で集計しています。

取組事例 1

▶ 視点 1 - 学習用情報端末を活用した取組 - (県立A高校)

学び直しでの活用

- 取組目標 基礎力診断テストの成績 (G T Z) で、D 1 以上の割合 50%以上
- 設定理由 共通教科の基礎学力を向上させることによって、より高いレベルの問題解決ができる資質・能力を育成したいため。
- 具体的方策 学習用パソコンを利用してオンライン・デジタル教材等に取り組みませる。教師の指示したドリル・Webテストのほか、基礎力診断テストの結果に応じて、個々の生徒に配信されるドリル等に取り組みませる。

取組 目標の 設定

- 学習用パソコンを利用し、朝学習の時間に「学び直し」として、オンライン・デジタル教材のWebドリルやWebテスト等に取り組みませた。
- 基礎力診断テストの結果に応じて個々の生徒にすすめられるWebドリルによる復習等を中心に取り組みませた。

【 主な活用と取組 】

基礎力診断テストの事前・事後において、オンラインで学習動画を視聴することは生徒の理解を助けるのに有効であったが、容量の大きい動画データを一齐に視聴するには、回線の都合上不安定さもあり、限られた時間を必ずしも有効活用できていなかった。

そこで、今年度は動画視聴を控え、朝学習の時間はWebテストを教科横断的 (国社数理英) に実施することに重点を置くよう改善を図った。テストが早く済んだ生徒は読書をする習慣づけがなされるなど、朝の時間は、デジタル教材を中心とした個別の基礎学力固めの時間として有効活用されている。

また、Webドリルにも継続して取り組んでおり、生徒個々に応じて適切な問題が配信されることで、効率的な学習内容の定着が図られている。「繰り返し」「自分のペースで」取り組めるデジタルドリルは、特に復習を中心とした学習に有効であるため、本校のねらいである基礎学力の向上のために今後も継続して取り組んでいく。

今年度途中に、事業者の変更により学校の通信環境が変わっている。十分に検証を行っていないが、回線の状況は以前より改善されているため、オンライン学習動画の利用についても、今後改めて検討する。



【デジタル教材に取り組む生徒】

- 基礎力診断テストの成績結果 (G T Z 別人数) において、1・2年生とも総合成績C3-。両学年とも目標である「D1 以上の割合50%」を達成することができた。特に2年生では昨年比で2ランクアップした。

取組 結果

「学び直し」をよりよいものにするため、前年度の課題から取組を改善することによって、基礎学力の向上において成果をあげている。

R元年度 学習用パソコンを利用した学校の取組について ～ 県立中学校および特別支援学校における取組目標 主な取組 ～

▶ 視点1 - 情報活用能力の育成 -

学校目標	設定理由	学校目標	設定理由
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ・情報を整理・発信する力の育成 ・自分の考えを適切に説明できる力の育成 	資格・技能の習得 中学卒業までに英語検定3級以上を取得した生徒の割合	<ul style="list-style-type: none"> ・英語によるコミュニケーション力の育成 ・リスニング力、スピーキング力の向上

中学校

情報活用能力の育成として、情報を収集、整理し、発信する力を身に付けさせることをねらいとして、プレゼンテーション力の向上を目標に掲げている学校がある。授業・授業外の活用では、英語によるコミュニケーション力の向上や、英語4技能の習得など、今後の生徒の進路実現を見据えて、英語の外部検定試験に向けた手立ての一つとして、学習用パソコンの活用を掲げている学校がある。



▶ 視点1 - 学習用情報端末を活用した取組 -

学校目標	設定理由	学校目標	設定理由
情報リテラシー	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的なパソコン操作の習得 ・アクセシビリティ機能を活用して、自らの視機能に合わせたパソコンの操作ができる生徒の割合 など 	情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に発表する態度の育成 ・お互いの発表を理解したり、活用したりする力の育成
学習、生活上の困難の克服	<ul style="list-style-type: none"> ・補助入力装置などの活用 ・発語がほとんどない児童生徒が、スイッチ操作で集会の司会ができるようになった割合 など 	学習、生活上の困難の克服への支援 児童生徒の見え方に応じた効果的な提示ができる教員の割合 など	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画を基にした支援 ・個々の障害に応じた視認性の向上

特別支援学校



学習用情報端末の活用

学習用情報端末の活用については、児童生徒の活用を想定した目標を設定している学校が多く、【情報活用能力の育成】、【パソコンの操作スキルの習得】を目標に掲げている学校が多い。



電子黒板の活用

電子黒板の活用については、教師の活用を想定した目標を設定している学校が多く、【授業改善・指導法の確立】、【学習、生活上の困難の克服への支援】を挙げている学校が多い。具体的には、画像・映像等を提示して、学習の見通しを持たせる、興味や関心を高めることなどをねらいとしている。

▶ 視点2 - 電子黒板を活用した取組 -

学校目標	設定理由	学校目標	設定理由
情報活用能力	<ul style="list-style-type: none"> ・就労に向けての支援 ・パソコンの操作技能の習得 	プレゼンテーション能力の育成 ことばの力を高め、自分の考えをわかりやすく伝えることができる児童生徒の育成 など	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に発表する態度の育成 ・お互いの発表を理解したり、活用したりする力の育成
教員のスキル	<ul style="list-style-type: none"> ・学びへの意欲的、主体的な参加 ・学習への達成感の成就と自己肯定感の高揚 	学習、生活上の困難の克服への支援 児童生徒の見え方に応じた効果的な提示ができる教員の割合 など	<ul style="list-style-type: none"> ・個別の支援計画を基にした支援 ・個々の障害に応じた視認性の向上

取組事例 2

▶視点 1 - 情報活用能力育成の取組 - (県立B中学校)

プレゼンテーションの取組

- **取組目標** プレゼンテーションソフトを使用してプレゼンテーションができる能力を要する生徒の割合を60%とする
- **設定理由** 自身が思い描いていることを適切に説明できる能力を身に付けさせたい
- **具体的方策** 様々な機会を利用して、操作方法を学び、小グループでの発表機会を増やし、クラス全体の発表会を行う

取組 目標の 設定

▶一人一人の生徒が、担当するシートを作成し、発表活動を行う

【総合的な学習の時間の取組内容】

- ① グループごとに、発表内容を決定
- ② 班員一人一人が、スライドを担当し、調べ学習を行う
- ③ 班内で、協働学習を通してスライドを完成させる
- ④ クラス内で発表活動を実施、代表グループは、学年会で発表
- ⑤ 学年会で選ばれた代表グループは、中高の合同発表会で発表

▶教科における、様々な学習活動において、学習用パソコンを活用し操作スキルの向上を図る

▶学校独自の評価シートによる相互評価の実施

▶中高の合同発表会に参加

具体的 取組



- 生徒自身が思い描いていることを的確に伝えることの大切さを認識できるようになっている
- 授業における表現活動が豊かになっている

取組 結果

自分自身の考えを適切に表現で
きる力を育んでいる

取組事例 3

▶視点1 - 学習用情報端末を活用した取組 - (C特別支援学校)

学習、生活上の困難の克服への支援

取組 目標の 設定

- 取組目標 個々の児童生徒の困り感を軽減するために、学習用情報端末を活用して、学習環境を整える
- 設定理由 児童生徒の特性や困難さに応じた学習用情報端末の活用を図ることで、児童生徒が意欲的、主体的に学習活動に参加したり、学習の達成感を味わえたりするようにするため
- 具体的方策 デジタル教科書やアプリケーションソフトを用いた授業を実施する

具体的 取組

- 職員の情報活用能力に応じた研修を実施
- 実践した内容を積み上げ、教職員で共有
- 生徒の困り感を軽減するための環境を整備

【 学習活動における取組 】

- ▶ 書字が苦手な児童生徒に、書字の代わりに撮影による記録方法を実施
動画や写真を活用して、学習の記録を作成
- ▶ 見通しがないと不安な児童生徒に、活動の流れを図や動画で提示
予測して活動することができるようになった。

取組 結果

- 児童生徒自身による、客観的な振り返りが可能になった。
- 書字が苦手な児童生徒も、記録をとることが可能になった。

児童生徒の困り感を軽減することが可能に

▶視点1 - 学習用情報端末を活用した取組 - (D特別支援学校)

基本的なパソコン操作の習得

取組 目標の 設定

- 取組目標 学習用情報端末を活用して情報収集の仕方を学習し、収集した情報を適切に活用できる能力を育てる。
- 設定理由 身につけた情報収集能力及びその表現方法を活用し、それぞれのQOLの向上に役立てるため。
- 具体的方策 ・インターネットなどを利用し情報の収集し、文章ソフトにまとめる学習を行う。
・まとめた情報をプレゼンテーションソフトなどを使ってプレゼンテーションする方法を学習する。

具体的 取組

【 学習活動における取組 】

- ▶ 各自で修学旅行で訪れたい場所をインターネットで調べ候補地を決め、班で目的地を検討・決定し、資料を作成する。
- ▶ 修学旅行後、訪問前の印象との違いなど実際に訪れた感想等をプレゼンテーションソフトにまとめ、電子黒板に投影し発表する。

取組 結果

- 学習用情報端末の基本的操作の習得
- インターネットを活用した情報収集能力の習得

学習用情報端末を活用することで、様々な情報活用能力の育成が図られた。